

5 各生活圏の状況

(1) 全県の傾向

小・中学校の特別な支援を必要とする児童生徒数及び県立特別支援学校在籍児童生徒数は、平成32年度をピークにその後平成38年度まで緩やかに減少して推移すると見られ、この傾向は県内全体の傾向であり、各生活圏でも大きな差は見られない（図8～14）。

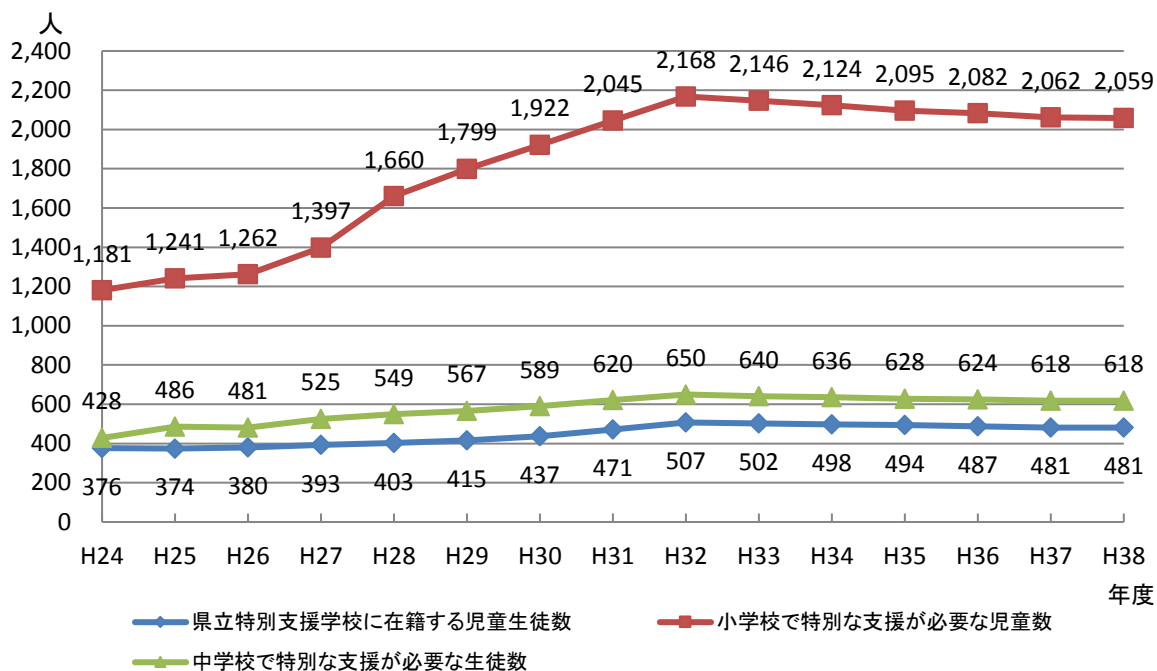


図8 県北地区

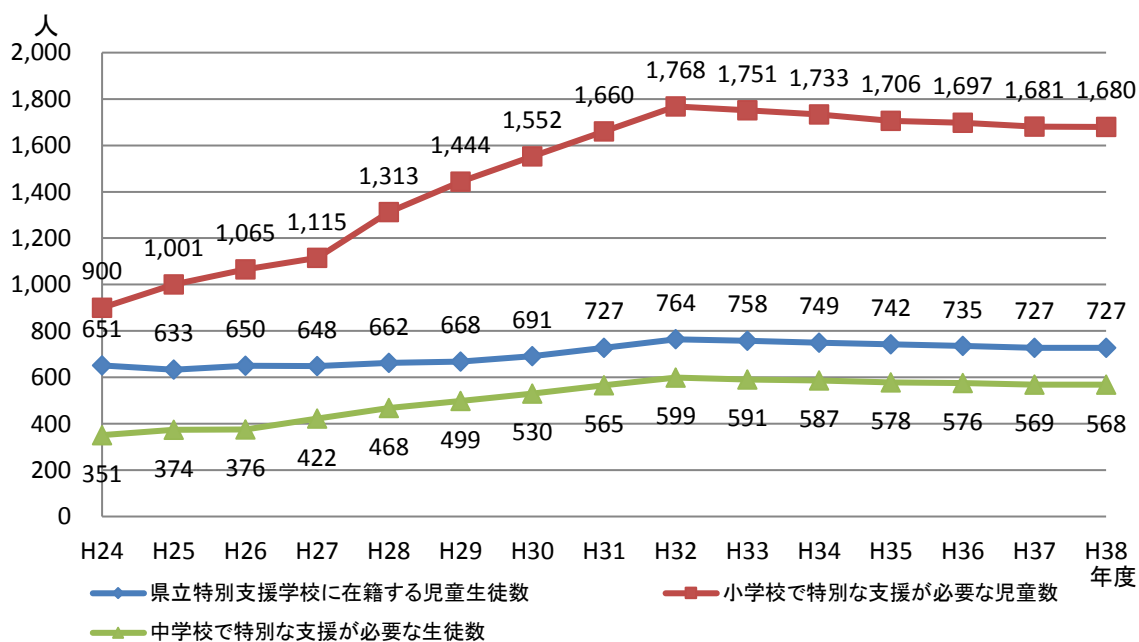


図9 県中地区

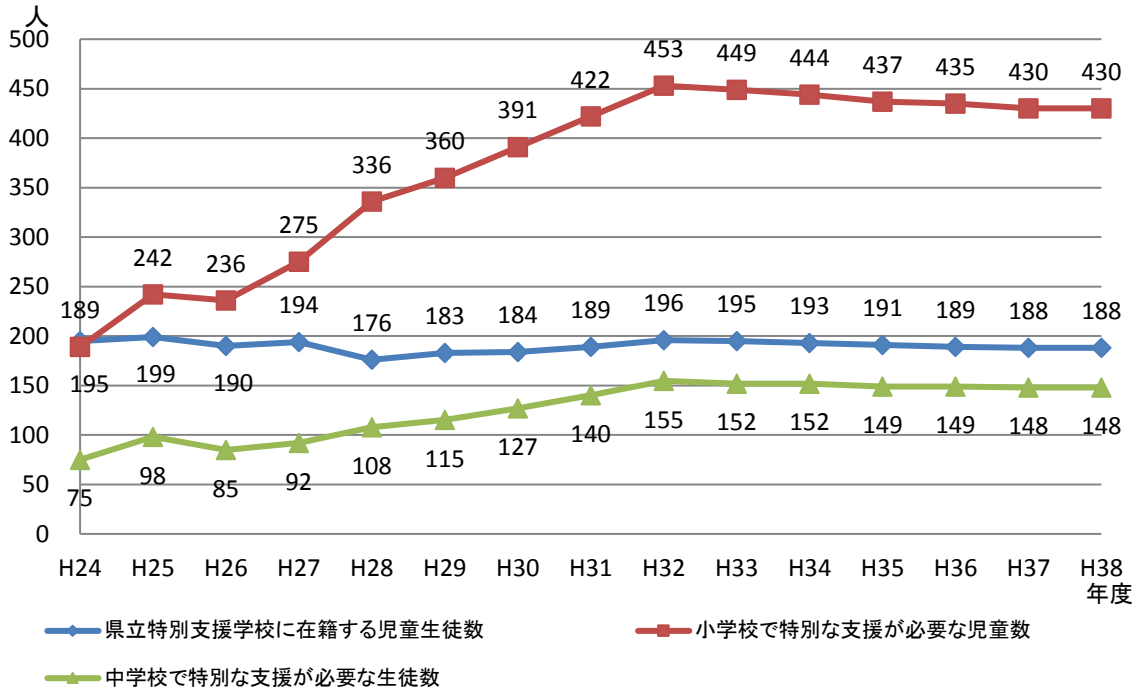


図 1 0 県南地区

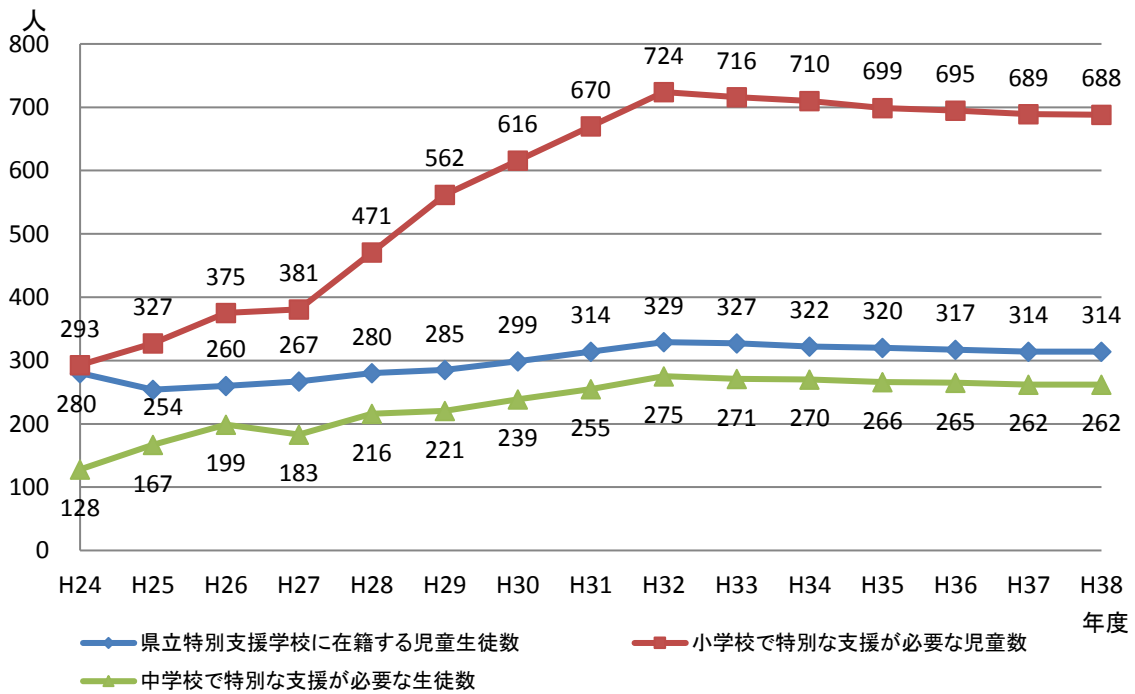


図 1 1 会津地区

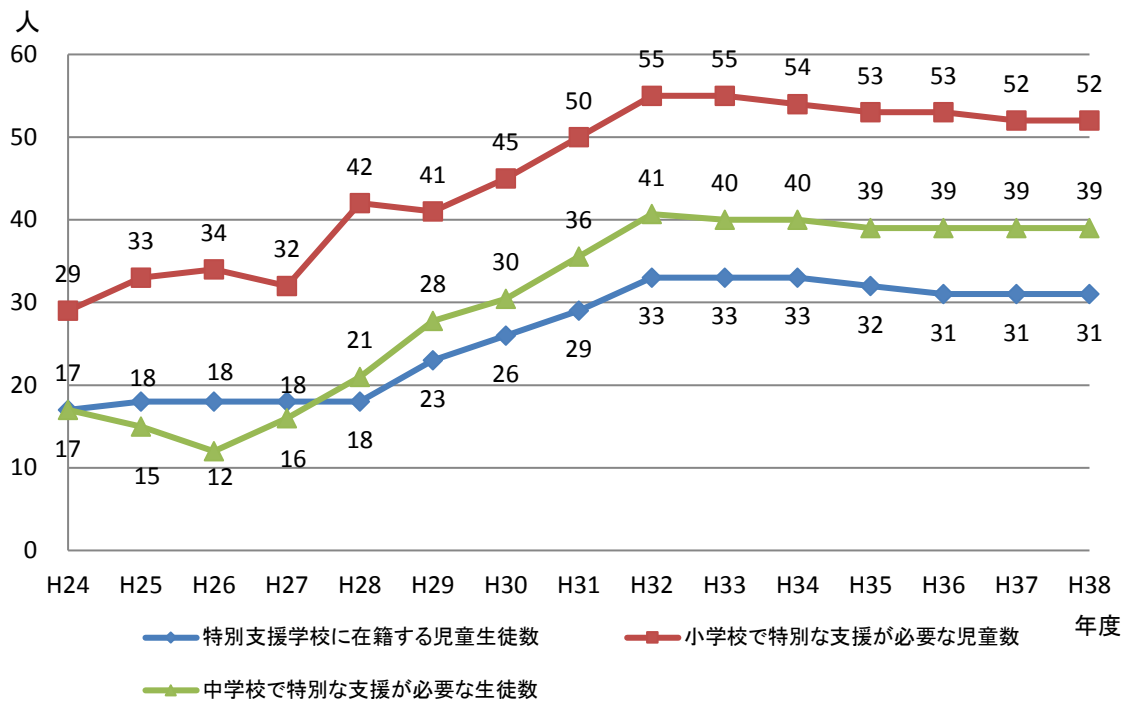


図 1 2 南会津地区

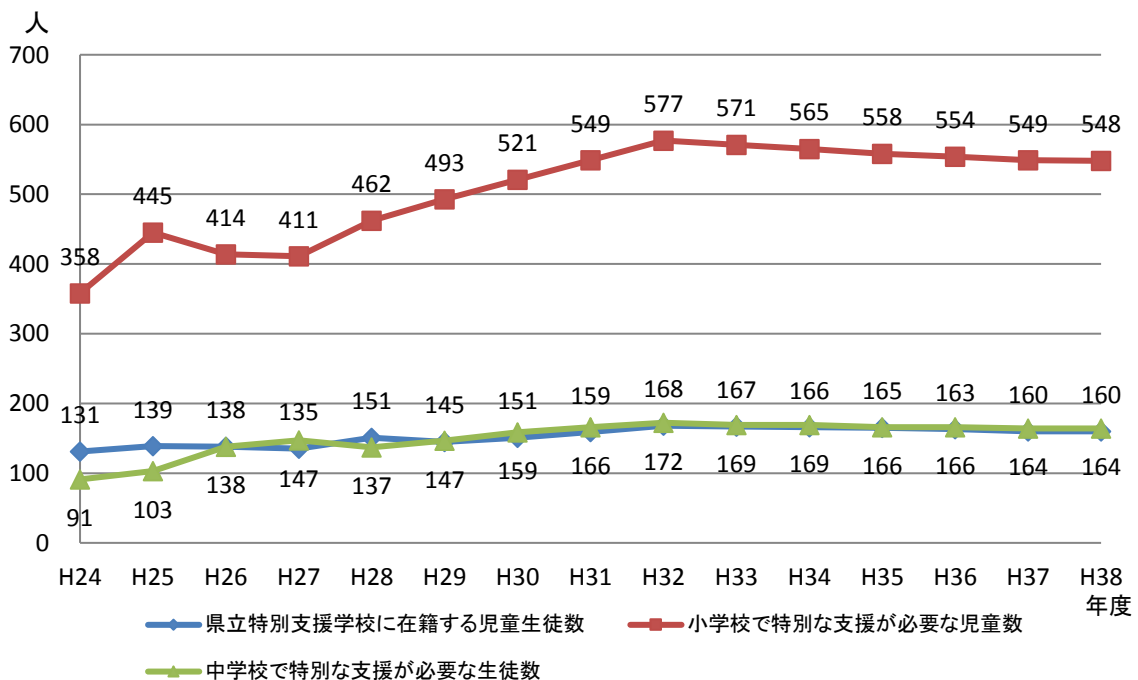


図 1 3 相双地区

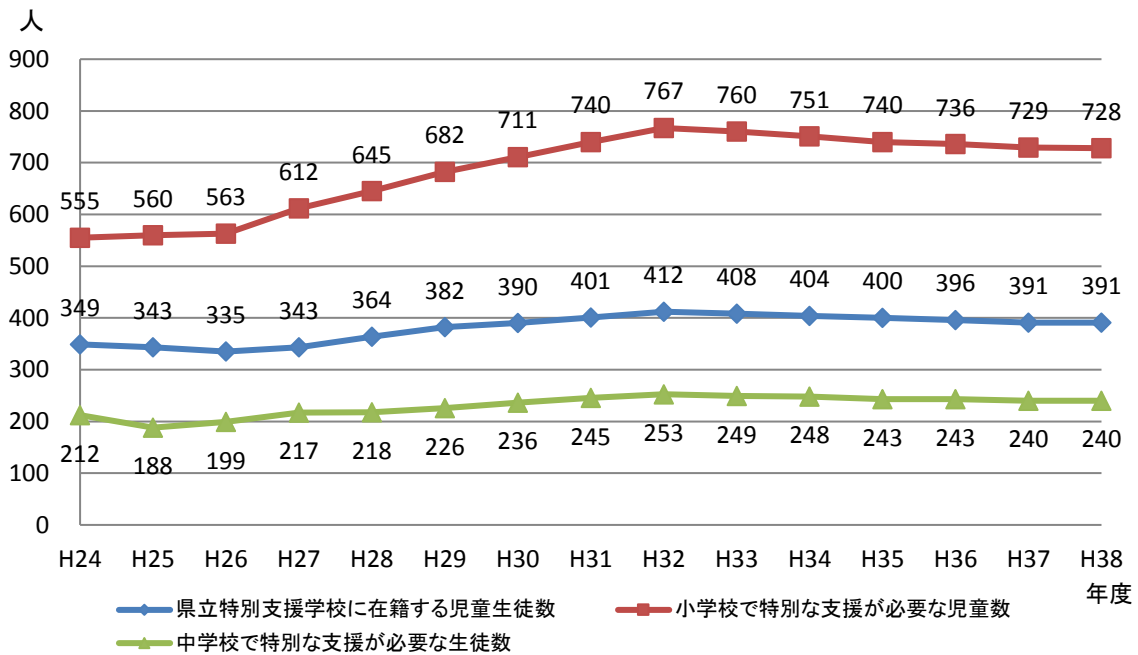


図 1 4 いわき地区

(2) 県北地区

① 県立特別支援学校に在籍する児童生徒数の推計

平成 2 9 年度の市町村別在籍児童生徒数は、福島市が 2 2 9 人、伊達市 6 4 人、二本松市 4 6 人、本宮市 3 4 人の順となっている。

平成 3 2 年度のピーク時以降は若干減少するが、平成 2 9 年度の児童生徒数を上回り、平成 3 8 年度には 4 8 0 人程度で推移するものと見られる(表 4)。

伊達市や二本松市において学校教育法施行令第 2 2 条の 3 に該当(※)する特別支援教育のニーズがある児童生徒(以下、視覚障がい者等)でありながら、通学の負担等から居住地の小学校や中学校の特別支援学級等で学んでいる児童生徒がそれぞれ 1 0 数名ほどいる。

※学校教育法施行令第 2 2 条の 3 に規定されている視覚障がい者、聴覚障がい者、知的障がい者、肢体不自由者、病弱者に該当する者をさし、特別支援学校へ就学するための必要条件である。このうち、市町村教育委員会が総合的な観点から判断し、特別支援学校に就学させることが適当であると認める者を認定特別支援学校就学者という(平成 2 5 年 教育支援資料から)。

表4 県北地区各市町村における特別支援学校在籍児童生徒数推計

県北	H25	H29	H32	H35	H38
福島市	196	229	271	263	257
二本松市	54	46	61	59	58
伊達市	50	64	83	81	79
本宮市	27	34	44	43	42
桑折町	8	10	13	13	12
国見町	10	4	10	10	10
川俣町	13	10	14	14	13
大玉村	11	11	11	11	10
計	369	408	507	494	481

② 通学状況

県北地区の分校を除く県立特別支援学校は、視覚支援学校と大笹生支援学校の2校である。視覚支援学校は、全県を通学対象としており寄宿舎が整備されている。知的障がいのある児童生徒を対象とする学校は大笹生支援学校1校のみであり、安達地区では県中地区の特別支援学校に通学の方が利便性が高いため、児童生徒の多くは県中地区の特別支援学校に通学している（表5）。

表5 主な地域から各特別支援学校へ通学する場合の所要時間等

地域	学校名	公共交通機関と時間	車利用の距離と時間
国見	大笹生支援	J R 16分 福島交通バス 22分	17km 33分
保原	大笹生支援	阿武隈急行 25分 福島交通バス 22分	16km 35分
川俣	大笹生支援	J Rバス 40分 福島交通バス 22分	30km 50分
二本松	大笹生支援	J R 23分 福島交通バス 22分	35km 50分
二本松	あぶくま支援	J R 24分 福島交通バス 11分	29km 45分
二本松	たむら支援	J R 51分 福島交通バス 3分	25km 37分
本宮	あぶくま支援	J R 15分 福島交通バス 11分	20km 40分
本宮	たむら支援	J R 42分 福島交通バス 3分	20km 32分

※ 地域は市役所、支所等を想定。乗り換え、徒歩時間は除く。

(3) 県中地区

① 県立特別支援学校に在籍する児童生徒数の推計

平成29年度の市町村別在籍児童生徒数は、郡山市430人、須賀川市115人、田村市、鏡石町26人となっている。平成32年度以降減少傾向となるが、ほとんどの市町村で平成38年度には平成29年度の児童生徒数を上回る見込みである（表6）。

平成29年4月に田村市に「たむら支援学校」、玉川村に「石川支援学校たまかわ校」が開校した。県中地区は最も対象児童生徒数が多い地区であるが、両校の開校により県立知的障がい特別支援学校は分校を含めて4校となったため、より居住地に近い学校への通学が可能となり、郡山市以外の学校への分散化が図られた。

② 通学状況

県中地区の県立特別支援学校は、聴覚障がい特別支援学校1校、肢体不自由特別支援学校1校、病弱特別支援学校が本校1校、分校1校、そして知的障がい特別支援学校が本校3校、分校1校の4校となっている。

郡山市を中心として通学エリアも広いが、郡山市に集中している児童生徒の分散化を図るよう周辺地域への学校を整備してきた経緯があり、通学時間も以前より短縮されている（表7）。

表6 県中地区各市町村における特別支援学校在籍児童生徒数推計

県中	H25	H29	H32	H35	H38
郡山市	398	430	483	469	459
須賀川市	103	115	132	128	125
田村市	28	26	33	32	31
鏡石町	28	26	26	25	25
天栄村	2	5	7	7	7
石川町	16	15	20	19	19
玉川村	7	4	4	4	4
平田村	8	15	15	15	14
浅川町	13	8	8	8	8
古殿町	3	4	9	9	9
三春町	17	12	20	19	19
小野町	10	8	7	7	7
計	633	668	764	742	727

表7 主な地域から各特別支援学校へ通学する場合の所要時間等

地域	学校名	公共交通機関と時間	車利用の距離と時間
郡山 (熱海)	あぶくま支援	J R 16分 福島交通バス 11分	22km 44分
須賀川	あぶくま支援	J R 12分 福島交通バス 11分	14km 26分
須賀川	石川支援	福島交通バス 60分	21km 30分
三春	あぶくま支援	J R 13分 福島交通バス 11分	13km 24分
三春	たむら支援	J R 13分 福島交通バス 3分	10km 20分
鏡石	あぶくま支援	J R 16分 福島交通バス 11分	18km 31分

※ 地域は市役所、支所等を想定。乗り換え、徒歩時間は除く。

(4) 県南地区

① 県立特別支援学校に在籍する児童生徒数の推計

平成29年度の市町村別在籍児童生徒数は、白河市76人、西郷村34人、棚倉町22人、矢吹町21人の順となっており、白河市と西郷村で全体の6割を占めている。平成32年度以降若干減少傾向ではあるが、平成38年度には平成29年度の児童生徒数を上回るか横ばいで推移する見込みである(表8)。

表8 県南地区各市町村における特別支援学校在籍児童生徒数推計

県南	H25	H29	H32	H35	H38
白河市	95	76	84	81	80
西郷村	23	34	44	43	42
泉崎村	7	7	7	7	7
中島村	6	1	1	1	1
矢吹町	29	21	15	15	14
棚倉町	19	22	25	24	24
矢祭町	5	6	9	9	9
塙町	9	8	8	8	8
鮫川村	1	3	3	3	3
計	194	178	196	191	188

② 通学状況

県南地区の県立特別支援学校は、知的障がい特別支援学校の西郷支援学校1校のみである。東白川郡の児童生徒は、西郷支援学校に通学するよりも水郡線等を利用して県中地区の石川支援学校に通学する傾向が見られる（表9）。

表9 主な地域から各特別支援学校へ通学する場合の所要時間等

地域	学校名	公共交通機関と時間	車利用の距離と時間
矢 吹	西郷支援	J R 17分	27km 36分
		福島交通バス 17分	
白 河 (東)	西郷支援	福島交通バス 28分	23km 40分
		福島交通バス 17分	
塙	石川支援	J R 30分	25km 35分

※ 地域は市役所、支所等を想定。乗り換え、徒歩時間は除く。

(5) 会津地区

① 県立特別支援学校に在籍する児童生徒数の推計

平成29年度の市町村別在籍児童生徒数は、会津若松市141人、喜多方市44人、猪苗代町31人、会津美里町27人、会津坂下町23人となっている。それ以外の市町村の在籍児童数は少ない。公共交通機関の整備状況や冬期間の交通の便などが学びの場の選択に影響していると見られる。平成32年度以降減少傾向ではあるが、平成38年度は、平成29年度の児童生徒数をやや上回るか横ばいで推移する見込みである（表10）。

表10 会津地区各市町村における特別支援学校在籍児童生徒数推計

会津	H25	H29	H32	H35	H38
会津若松市	127	141	156	151	148
喜多方市	40	44	47	46	45
北塩原村	3	1	1	1	1
西会津町	5	3	3	3	3
磐梯町	6	4	4	4	4
猪苗代町	23	31	43	42	41
会津坂下町	19	23	29	28	28
湯川村	6	6	6	6	6
柳津町	2	1	2	2	2
三島町	1	1	1	1	1
金山町	0	0	0	0	0
昭和村	1	1	1	1	1
会津美里町	21	27	36	35	34
計	254	283	329	320	314

② 通学状況

会津地区の分校を除く県立特別支援学校は、知的障がい特別支援学校の会津支援学校と猪苗代支援学校の2校となっている。会津地区は広域であり、学校から離れた地域に居住する児童生徒は、通学に時間がかかるため併設する施設に入所するなどして学校に通学している（表11）。

表11 主な地域から各特別支援学校へ通学する場合の所要時間等

地域	学校名	公共交通機関と時間	車利用の距離と時間
西会津	会津支援	J R 49分	33km 50分
柳津	会津支援	J R 63分	26km 45分
南会津	会津支援	会津鉄道 70分	50km 70分
磐梯	会津支援	J R 14分	9km 14分
磐梯	猪苗代支援	J R 10分	9km 14分

※ 地域は市役所、支所等を想定。乗り換え、徒歩時間は除く。

(6) 南会津地区

① 県立特別支援学校に在籍する児童生徒数の推計

平成29年度の町村別在籍児童生徒数は、南会津町12人、下郷町10人、只見町1人となっている。平成32年度以降平成38年度まで、南会津地区では30人ほどで推移する見込みである（表12）。

南会津地区では、小・中学校の特別支援学級が増加している。既存の特別支援学級には、医療的ケアを必要とする重度・重複障がいのある児童生徒などに対応できる教育環境は整備されていない。地域内の高等学校でも特別な支援を必要とする生徒が増加していることから、3校中2校に学習支援員を配置している。

② 通学状況

この地域には県立特別支援学校の設置はなく、地域外の県立特別支援学校へ遠距離通学をするか、通学できない場合は他地域の施設へ入所し、その施設に併設された県立特別支援学校へ転入学している。

表12 南会津地区各町村における特別支援学校在籍児童生徒数推計

南会津	H25	H29	H32	H35	H38
下郷町	6	10	17	16	16
檜枝岐村	1	0	0	0	0
只見町	1	1	1	1	1
南会津町	10	12	15	15	14
計	18	23	33	32	31

(7) 相双地区

① 県立特別支援学校に在籍する児童生徒数の推計

平成29年度の市町村別在籍児童生徒数は、南相馬市が62人、相馬市36人、広野町、檜葉町10人となっている。相馬郡と比べて双葉郡には東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の影響が残り、人数は少なくなっている。

児童生徒数は、平成32年度以降減少傾向となるが、南相馬市は、相馬支援学校の移転新築もあり減少率は小さく、平成38年度は平成29年度より上回ると見られる(表13)。

② 通学状況

相双地区の県立特別支援学校は、知的障がい特別支援学校の相馬支援学校と富岡支援学校の2校である。富岡支援学校は、現在東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故による避難のためいわき地区に応急的に移設していることから、実質は1校のみである。

JR浪江駅以北の常磐線は復旧したが、富岡と浪江の区間はバスの代行運行が行われており、相馬郡と双葉郡の移動にはなお不便な面が残っている(表14)。

表13 相双地区各町村における特別支援学校在籍児童生徒数推計

相双	H25	H29	H32	H35	H38
南相馬市	58	62	71	69	67
相馬市	38	36	36	35	34
広野町	7	10	15	15	14
檜葉町	12	10	10	10	10
富岡町	4	5	8	8	8
川内村	3	3	3	3	3
大熊町	5	9	11	11	10
双葉町	0	2	2	2	2
浪江町	2	1	1	1	1
葛尾村	2	1	1	1	1
新地町	4	5	9	9	9
飯舘村	1	1	1	1	1
計	136	145	168	165	160

表 1 4 主な地域から各特別支援学校へ通学する場合の所要時間等

地域	学校名	公共交通機関と時間	車利用の距離と時間
南相馬	相馬支援	J R 17 分	20km 30 分
飯 舘	相馬支援	—	40km 50 分
檜 葉	富岡支援	J R 27 分	27km 31 分

※ 地域は市役所、支所等を想定。乗り換え、徒歩時間は除く。

(8) いわき地区

① 県立特別支援学校に在籍する児童生徒数の推計

平成 2 9 年度の在籍児童生徒数は、3 7 9 人となっている。平成 3 2 年度には 4 0 0 人を超え、その後緩やかに減少し、平成 3 8 年度には 3 9 0 人ほどで推移するものと見られる (表 1 5)。

表 1 5 いわき市における特別支援学校在籍児童生徒数推計

いわき	H25	H29	H32	H35	H38
いわき市	340	379	412	400	391

② 通学状況

いわき地区の分校を除く県立特別支援学校は、肢体不自由特別支援学校の平支援学校と、知的障がい特別支援学校のいわき支援学校の 2 校であるが、富岡支援学校を震災によりいわき地区に避難させている。

公共交通機関は、常磐線とバスによる移動が主となる。居住地は平、常磐湯本、小名浜など市内に広く分散しており、広範囲から通学している (表 1 6)。

表 1 6 主な地域から各特別支援学校へ通学する場合の所要時間等

地域	学校名	公共交通機関と時間	車利用の距離と時間
いわき (湯本)	いわき支援	J R 10 分 新常磐交通バス 10 分	11km 25 分
いわき (小名浜)	いわき支援	新常磐交通バス 40 分	15km 30 分
いわき (勿来)	いわき支援	J R 25 分 新常磐交通バス 10 分	31km 35 分
いわき (小川)	いわき支援	J R 12 分 新常磐交通バス 10 分	12km 21 分
いわき (小名浜)	いわき支援 くぼた校	新常磐交通バス 17 分 J R 10 分	17km 24 分
いわき (平)	富岡支援	J R 5 分 新常磐交通バス 10 分	8km 16 分
いわき (勿来)	富岡支援	J R 19 分 新常磐交通バス 10 分	30km 34 分

※ 地域は市役所、支所等を想定。乗り換え、徒歩時間は除く。

6 県立特別支援学校の運営状況

(1) 大笹生支援学校（知的障がい）

福島市北西部の郊外に位置し、障がい児入所施設である大笹生学園に併設されている。平成12年度に高等部が新設された。それ以降、児童生徒数の増加に伴い、平成22年度に校舎増築を行うなど教育環境整備を進めてきた。

平成32年度の児童生徒数をピークにその後、10年程度は280人程度で推移する見込みである。平成29年度の児童生徒数は想定定員数の119%となっており、教室不足を間仕切り等で対応している。

福島市から通学する児童生徒が最も多く、次いで伊達市、伊達郡の順となっている。伊達地区から76人通学しており、伊達市の中でも梁川、霊山や伊達郡の川俣町の児童生徒はさらに通学距離が延び、通学時間が長くなっている状況である。JR福島駅から大笹生支援学校までの主な公共交通機関はバスのみで、所要時間は20分程度である。1日に運行するバスの便数は往復で10便のみであり利便性はよくない。伊達、安達地区から通学する場合は、JR福島駅で乗り換えが必要となっている。

センター的機能のエリアとしては、二本松市の中心部までは30kmあることから学校の位置及び福島市の特別支援学級等に在籍する児童生徒数から見て、福島市内の他の特別支援学校と役割分担をしながら対応している。

【大笹生支援学校データ】

○在籍児童生徒数の推計

年 度	H25	H29	H32	H35	H38
人 数	210	257	297	288	282

○在籍児童生徒の市町村別人数（平成29年度）

市町村名	福島市	伊達市	桑折町	川俣町	国見町	その他	計
人 数	171	56	8	8	4	10	257

○教室数から算出した想定定員数

	教 室 数		想定定員数
	小・中学部	高等部	
教室数	30	16	46
人 数	120	96	216

※特別教室等の転用分や間仕切り対応した分を除いた教室数から想定定員数を推計。1教室当たり小・中学部は4人、高等部は6人として積算。

○通学バスの運行状況

運行方面	学部別利用児童生徒数		
	小	中	計
桑折、伊達方面（約 12km）	11	3	14
保原、梁川方面（約 25km）	9	10	19

※梁川は朝のみ運行。自治体（伊達市）の送迎あり。

○センター的機能対象エリア

対象市町村（地区）	特別支援学級在籍児童生徒数		
	小	中	計
福島市	313	141	454
伊達地区(伊達、桑折、国見、川俣)	156	50	206

○併設施設の状況

施設名称等	定員	学部別入所人数			
		小	中	高	計
大笹生学園	45	9	7	15	31

（２）あぶくま支援学校（知的障がい）

通学制の知的障がい特別支援学校として設置された。郡山市や二本松市、本宮市等の地区から通学する児童生徒数の増加により、教育環境の改善が求められている。あぶくま養護学校安積分校が平成28年度末で閉校となったが、たむら支援学校や石川支援学校たまかわ校の開校により児童生徒数が増加している県中地区の特別支援学校の教室不足等が一部解消されている。

しかし、平成29年度の児童生徒数は想定定員数の116%となっており、教室数の不足を間仕切り等で対応している。児童生徒数は、たむら支援学校や石川支援学校たまかわ校の開校により、平成32年度の372人のピーク以降は緩やかな減少傾向にあり、増加率は低めであると見られる。

郡山市から通学する児童生徒数は257人と最も多く、次いで須賀川市、本宮市、二本松市の順となっている。その他に大玉村から通学している5人を含めると、安達地区からは40人程度が通学している。児童生徒の約7割が郡山市内からの通学であるが、市内の交通状況の影響もあり、通学に時間がかかっている。

センター的機能のエリアとしては、郡山市の特別支援学級等の児童生徒数から見て、郡山市を中心に対応していくのが適当であるが、郡山市の人数が多いため、周辺の市町村については他の県立特別支援学校がカバーする体制が望ましい。

【あぶくま支援学校データ】

○在籍児童生徒数推計

年 度	H25	H29	H32	H35	H38
人 数	333	348	372	361	353

○在籍児童生徒の市町村別人数（平成29年度）

市町村名	郡山市	須賀川市	本宮市	二本松市	その他	計
人 数	257	28	20	12	31	348

○教室数から算出した想定定員数

	教 室 数		想定定員数
	小・中学部	高等部	
教室数	33	28	46
人 数	132	168	300

※特別教室等の転用分や間仕切り対応した分を除いた教室数から想定定員数を推計。1教室当たり小・中学部は4人、高等部は6人として積算。

○通学バスの運行状況

運行方面	学部別利用児童生徒数		
	小	中	計
北ルート（市内北部約16km）	12	14	26
南ルート（市内南部約15km）	15	19	34
安積ルート（市内 約10km）	10	7	17

※自治体（本宮市）の送迎あり。

○センター的機能対象エリア

対象市町村（地区）	特別支援学級在籍児童生徒数		
	小	中	計
郡山市	459	160	619
安達地区（二本松、本宮、大玉）	154	68	222
岩瀬地区（須賀川一部、岩瀬）	53	18	71

（3）石川支援学校（知的障がい）

障がい児入所施設の桜が丘学園が併設されている。平成29年度に玉川村の川辺地区に分校のたまかわ校が開校した。あぶくま養護学校安積分校や石川支援学校本校に在籍していた児童生徒がたまかわ校に通学するなど、岩瀬地区、矢吹地区を中心に県中県南地区の児童生徒が居住している地域に近い学校で学ぶことができ、また対象児童生徒の分散化につながっている。

しかし、平成29年度の児童生徒数は想定定員数の108%となっており、たまかわ校では今後認知度が上がることなどから、児童生徒数のピークが平成34年度になることが想定される。

本校には入所施設が併設されているが、東白川郡や石川郡からJR水郡線を利用して通学するなど、広範囲にわたる地区から通学している。

センター的機能のエリアとしては、東白川郡の埜町まで約25km、須賀川市中心部まで20kmあり、距離や人数規模からみて須賀川市の一部から石川郡や東白川郡を中心に対応している。

【石川支援学校データ】

○在籍児童生徒数推計

	H25	H29	H32	H35	H38
本 校	129	121	135	125	105
たまかわ校	-	37	55	55	50

○在籍児童生徒の市町村別人数（平成29年度）

	須賀川市	棚倉町	石川町	平田村	その他	計
本 校	21	21	12	10	57	121
	須賀川市	矢吹町	鏡石町	天栄村	その他	計
たまかわ校	18	8	6	2	3	37

○教室数から算出した想定定員数

	教 室 数		想定定員数
	小・中学部	高等部	
教室数	16	8	24
人 数	64	48	112

※特別教室等の転用分や間仕切り対応した分を除いた教室数から想定定員数を推計。1教室当たり小・中学部は4人、高等部は6人として積算。

○通学バスの運行状況

運行方面	学部別利用児童生徒数		
	小	中	計
埜方面（約25km）	15	5	20
矢吹、岩瀬、須賀川方面（約28km）	28	7	35

※矢吹、岩瀬、須賀川方面の運行はたまかわ校の状況

○センター的機能対象エリア

対象市町村（地区）	特別支援学級児童生徒数		
	小	中	計
石川郡（石川、浅川、古殿）	38	22	60
東白川郡（棚倉、埜）	52	14	66

○併設施設の状況

施設名称等	定員	学部別入所人数			
		小	中	高	計
桜が丘学園	30	7	7	8	22

(4) たむら支援学校（知的障がい）

平成29年度に開校した通学制の知的障がい特別支援学校であり、田村市、田村郡、二本松市等を中心としてあぶくま支援学校に通学していた児童生徒が転学して通学している。田村市や三春町には中学校特別支援学級に在籍する児童生徒が比較的多いことや、高等部の教育内容が広く地域に認知されることにより、高等部の入学希望者が増えることが想定される。平成29年度の児童生徒数は想定定員数の50%という状況である。

二本松市の中心部からは約25km、本宮市からは約20kmの距離にあり、40分から60分程度の通学時間がかかっている。

センター的機能のエリアとしては、田村市や田村郡、安達地区の一部に対応している。

【たむら支援学校データ】

○在籍児童生徒数推計

年 度	H25	H29	H32	H35	H38
人 数	-	38	70	90	90

○在籍児童生徒の市町村別人数（平成29年度）

市町村名	二本松市	田村市	本宮市	小野町	その他	計
人 数	14	11	3	3	7	38

○教室数から算出した想定定員数

	教 室 数		想定定員数
	小・中学部	高等部	
教室数	7	8	15
人 数	28	48	76

※特別教室等の転用分や間仕切り対応した分を除いた教室数から想定定員数を推計。1教室当たり小・中学部は4人、高等部は6人として積算。

○通学バスの運行状況

運行方面	学部別利用児童生徒数		
	小	中	計
二本松、三春方面（約35km）	13	4	17
小野、船引方面（約20km）	6	2	8

○センター的機能対象エリア

対象市町村（地区）	特別支援学級児童生徒数		
	小	中	計
田村市	40	21	61
田村郡（三春、小野）	67	22	89
安達地区（二本松、本宮）	136	66	202

（５）西郷支援学校（知的障がい）

障がい児入所施設の白河こひつじ学園、白河めぐみ学園が併設されている。

施設に入所し登校する児童生徒数の割合は、全校生の約30%と高く、通学や送迎にかかる時間はほとんどが1時間以内である。入所者の中には南会津地区のように居住地に特別支援学校がなく通学できないため、施設に入所して通学する方法を取らざるを得ないケースもある。

西郷支援学校の児童生徒数は、平成32年度のピーク以降、なだらかな減少傾向をたどると見られ、平成29年度の児童生徒数は想定定員数の104%となっている。

白河市の中心部からは10kmほど、比較的遠い矢吹町まで約25kmである。一番多く通学している白河市からは距離的に近いこともあり、長時間通学に関する問題は特に生じていない。

センター的機能のエリアとしては、白河市、西白河郡に対応している。

【西郷支援学校データ】

○在籍児童生徒数推計

市町村名	H25	H29	H32	H35	H38
人 数	146	129	140	130	107

○在籍児童生徒の市町村別人数（平成29年度）

市町村名	白河市	西郷村	郡山市	南会津町	その他	計
人 数	60	30	7	5	27	129

○教室数から算出した想定定員数

	教 室 数		想定定員数
	小・中学部	高等部	
教室数	16	10	26
人 数	64	60	124

※特別教室等の転用分や間仕切り対応した分を除いた教室数から想定定員数を推計。1教室当たり小・中学部は4人、高等部は6人として積算。

○通学バスの運行状況

運行方面	学部別利用児童生徒数		
	小	中	計
白河、新白河方面（約 15km）	15	11	26

○センター的機能対象エリア

対象市町村（地区）	特別支援学級児童生徒数		
	小	中	計
白河市	76	27	103
西白河郡（西郷、矢吹他）	49	20	69

○併設施設の状況

施設名称等	定員	学部別入所人数			
		小	中	高	計
白河こひつじ学園	30	5	4	6	15
白河めぐみ学園	30	2	9	11	22

（6）会津支援学校（知的障がい）

通学制の知的障がい特別支援学校として設置された。平成32年度の児童生徒数のピーク以降、会津地区の特別な支援を必要とする児童生徒数は緩やかに減少していくと見られる。会津若松市以外の市町村を見ると、喜多方市の児童生徒数が多いが、今後の推移では現在の人数から大きく動くことはないと思われる。一方、人数は少ないものの一定の割合で南会津地区から通学している実態がある。

平成29年度の児童生徒数は想定定員数の115%となっている。

会津支援学校は、通学制の特別支援学校として会津地区全域が通学対象であり、JR会津若松駅や国道から比較的近く、通学の便がよい場所に設置されている。喜多方市までは約20km、会津美里町や会津坂下町は15km以内の位置にある。

センター的機能のエリアとしては、会津若松市、喜多方市を中心に周辺地域に対応している。

【会津支援学校データ】

○在籍児童生徒数推計

年 度	H25	H29	H32	H35	H38
人 数	192	218	225	210	180

○在籍児童生徒の市町村別人数（平成29年度）

市町村名	会津若松市	喜多方市	会津美里町	会津坂下町	その他	計
人 数	116	32	25	18	27	218

○教室数から算出した想定定員数

	教室数		想定定員数
	小・中学部	高等部	
教室数	25	15	40
人数	100	90	190

※特別教室等の転用分や間仕切り対応した分を除いた教室数から想定定員数を推計。1教室当たり小・中学部は4人、高等部は6人として積算。

○通学バスの運行状況

運行方面	学部別利用児童生徒数		
	小	中	計
北会津、新鶴方面（約20km）	4	6	10
本郷、高田方面（約20km）	6	7	13
坂下、野沢方面（約35km）	3	1	4
河東、喜多方方面（約25km）	2	7	9

○センター的機能対象エリア

対象市町村（地区）	特別支援学級児童生徒数		
	小	中	計
会津若松市	88	46	134
喜多方市	65	19	84
会津坂下町、会津美里町	41	14	55

(7) 猪苗代支援学校（知的障がい）

障がい児入所施設のばんだい荘わかばが併設されている。通学が困難な地域からの入所者を受け入れている実態がある。学校の規模は40人から50人ほどであり、今後の推移も大きな動きはないと見られる。

平成29年度の児童生徒数は想定定員数の63%となっている。

通学範囲は、猪苗代町とその周辺地域であり、その他は施設入所者となっている。通学バスは運行していない。

センター的機能のエリアとしては、猪苗代町を中心とした地域に対応している。

【猪苗代支援学校データ】

○在籍児童生徒数推計

年度	H25	H29	H32	H35	H38
人数	45	43	55	53	45

○在籍児童生徒の市町村別人数（平成29年度）

市町村名	猪苗代町	会津若松市	喜多方市	その他	計
人数	23	4	3	13	43

○教室数から算出した想定定員数

	教室数		想定定員数
	小・中学部	高等部	
教室数	8	6	14
人数	32	36	68

※特別教室等の転用分や間仕切り対応した分を除いた教室数から想定定員数を推計。1教室当たり小・中学部は4人、高等部は6人として積算。

○センター的機能対象エリア

対象市町村（地区）	特別支援学級児童生徒数		
	小	中	計
耶麻郡（西会津町除く）	18	6	24

○併設施設の状況

施設名称等	定員	学部別入所人数			
		小	中	高	計
ばんだい荘わかば	40	2	3	16	21

（8）相馬支援学校（知的障がい）

昭和46年に相馬市立の養護学校として設立された。その後新地町や南相馬市などからの児童生徒の受け入れが進み、平成22年に福島県に移管した。現校舎の老朽化と児童生徒数の増加により、平成32年4月の開設を目指し、南相馬市に移転新築する計画である。

平成29年度の児童生徒数は想定定員数の124%となっている。

移転新築に伴い、駅から比較的近いという通学の利便性から130人程度で推移すると見られる。

センター的機能のエリアとしては、南相馬市、相馬市、相馬郡を中心に対応している。

【相馬支援学校データ】

○在籍児童生徒数推計

年度	H25	H29	H32	H35	H38
人数	85	94	120	135	135

○在籍児童生徒の市町村別人数（平成29年度）

市町村名	南相馬市	相馬市	新地町	その他	計
人数	52	34	5	3	94

○教室数から算出した想定定員数（現校舎）

	教 室 数		想定定員数
	小・中学部	高等部	
教室数	10	6	16
人 数	40	36	76

※特別教室等の転用分や間仕切り対応した分を除いた教室数から想定定員数を推計。1教室当たり小・中学部は4人、高等部は6人として積算。

○通学バスの運行状況

運行方面	学部別利用児童生徒数		
	小	中	計
南相馬、鹿島方面（約 20km）	8	7	15
相馬駅（約 3km）	2	10	12

○センター的機能対象エリア

対象市町村（地区）	特別支援学級児童生徒数		
	小	中	計
南相馬市	79	31	110
相馬市	58	13	71
相馬郡（新地、飯舘）	10	13	23

（9）富岡支援学校（知的障がい）

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の避難として、いわき市北部に応急的な対応として校舎を移転しており、多くの児童生徒は、いわき市内から通学している。震災以前からの障がい児入所施設である東洋学園がいわき市北部に仮設ではあるが新たな施設を開設することや、双葉郡の避難解除が進み小・中学校が再開されていることに伴い、富岡支援学校で学ぶ児童生徒数が増加することが想定されたことから、平成29年4月に県立四倉高等学校内に中・高等部を応急的に移設した。

児童生徒数については、平成32年度以降も現状より若干多めに推移していくことが予想される。

平成29年度の児童生徒数は想定定員数の62%となっている。

現在の通学エリアについては、双葉郡南部からいわき市南部までの広いエリアであり、通学時間が長くなっている。センター的機能のエリアとしては、双葉郡を中心に対応している。

なお、現在は応急的な対応であり、富岡町を始めとする双葉郡の自治体の帰還状況等を踏まえながら、最終的な在り方を検討する必要がある。

【富岡支援学校データ】

○在籍児童生徒数推計

年 度	H25	H29	H32	H35	H38
人 数	30	52	80	85	85

○在籍児童生徒の市町村別人数（平成29年度）

市町村名	いわき市	広野町	檜葉町	南相馬市	その他	計
人 数	30	7	5	3	7	52

○教室数から算出した想定定員数

	教 室 数		想定定員数
	小・中学部	高等部	
教室数	12	6	18
人 数	48	36	84

※特別教室等の転用分や間仕切り対応した分を除いた教室数から想定定員数を推計。1教室当たり小・中学部は4人、高等部は6人として積算。

○通学バスの運行状況

運行方面	学部別利用児童生徒数		
	小	中	計
広野、檜葉方面（本校）（約25km）	5		5
広野方面（四倉校舎）（約28km）		1	1
植田方面（本校）（約35km）	12		12
泉方面（四倉校舎）（約30km）		5	5

○センター的機能対象エリア

対象市町村（地区）	特別支援学級児童生徒数		
	小	中	計
双葉郡	9	5	14
いわき市北部	11	6	17

○併設施設の状況

施設名称等	定員	学部別入所人数			
		小	中	高	計
東洋学園	80	2	4	9	15

※震災以前は併設であったが、現在は学校とは別な場所にある。

(10) いわき支援学校（知的障がい）

通学制の知的障がい特別支援学校として設置され、いわき市全域から通学している。県立勿来高等学校内に分校であるくぼた校（高等部）を平成27年度に設置したことで、本校では一時230人程度あった児童生徒数が210人程度となっている。平成29年度の児童生徒数は想定定員数に対し、本校98%、分校67%である。

児童生徒数は平成32年度をピークに若干減少して推移していくと想定している。くぼた校は、認知度が上がってきたこともあり、いわき市南部中心に生徒数が増加する傾向にある。

センター的機能のエリアとしては、いわき市全域に対応している。

【いわき支援学校データ】

○在籍児童生徒数推計

年 度	H25	H29	H32	H35	H38
本校	233	211	210	200	180
くぼた校	-	28	55	50	45

○在籍児童生徒の地区別人数（平成29年度）

地区名	平	小名浜	常磐	泉	その他	計
本校	41	30	23	20	97	211
地区名	勿来	植田	小名浜・泉	その他		計
分校（くぼた）	13	7	6	2		28

○教室数から算出した想定定員数

		教 室 数		想定定員数
		小・中学部	高等部	
本 校	教室数	30	16	46
	人 数	120	96	216
分 校	教室数	-	7	7
	人 数	-	42	42

※特別教室等の転用分や間仕切り対応した分を除いた教室数から想定定員数を推計。1教室当たり小・中学部は4人、高等部は6人として積算。

○通学バスの運行状況

運行方面	学部別利用児童生徒数		
	小	中	計
小名浜、勿来方面（約35km）	18	12	30
鹿島、植田方面（約28km）	15	14	29
内郷、湯本方面（約15km）	16	11	27

○センター的機能対象エリア

対象市町村（地区）	特別支援学級児童生徒数		
	小	中	計
いわき市（北部除く）	320	135	455

（１１）視覚支援学校（視覚障がい）

明治31年に私立福島訓盲学校として福島市に設立され、その後昭和19年に県立に移管された。昭和23年盲聾学校義務制により、郡山、会津、平の市立校が県立に移管され、それぞれ分校となった。昭和28年には各分校は独立校となった後、昭和35年、学則改正により盲学校と改称した。同年、寄宿舎が整備されている。平成29年に視覚支援学校として名称が改正され、現在に至っている。

児童生徒数は今後35人程度で推移していくと想定している。

【視覚支援学校データ】

○在籍児童生徒数推計

年 度	H25	H29	H32	H35	H38
人 数	44	28	37	34	32

○在籍児童生徒の市町村別人数（平成29年度）

市町村名	福島市	郡山市	白河市	会津坂下町	その他	計
人 数	9	6	2	2	9	28

○寄宿舎の状況

学部別入舎人数				主な入舎者の地区別内訳
小	中	高	計	
3	2	9	14	県北4、県中4、県南4、その他2

（１２）聴覚支援学校（聴覚障がい）

明治41年に私立郡山訓盲学校が開校した。昭和23年の盲聾学校義務制により県立福島盲聾学校の郡山分校となった。昭和35年に寄宿舎が完成した。その後、学則改正による校名変更を経て、昭和50年県立聾学校と改称された。

聴覚障がい特別支援学校として郡山市に本校が、福島市、いわき市、会津若松市に分校が設置されている。本校に併設されている郡山光風学園に入所して通学している児童生徒が数名いる。児童生徒数は本校、分校ともに、平成32年度をピークに横ばいで推移していくと見られる。

【聴覚支援学校データ】

○在籍児童生徒数推計

年 度	H25	H29	H32	H35	H38
本校	69	79	81	68	67
福島校	21	13	20	19	19
会津校	4	4	4	4	4
平校	13	12	16	14	13

○在籍児童生徒の市町村別人数（平成29年度）

市町村名	郡山市	福島市	伊達市	須賀川市	その他	計
本校	31	14	4	4	26	79
市町村名	福島市	相馬市	飯舘村	—	—	計
分校（福島校）	11	1	1	—	—	13
市町村名	喜多方市	会津若松市	会津坂下町	—	—	計
分校（会津校）	2	1	1	—	—	4
市町村名	平	常 磐	小名浜	その他	—	計
分校（平校）	4	3	2	3	—	12

○寄宿舎の状況

学部別入舎人数				主な入舎者の地区別内訳
小	中	高	計	
0	14	15	29	県北 17、会津 5、県南 4、その他 3

○併設施設の状況

施設名称等	定員	学部別入所人数			
		小	中	高	計
郡山光風学園	20	1	1	1	3

（13）郡山支援学校（肢体不自由）

昭和28年に福島整肢療護園内に設置された肢体不自由の特殊学級が、昭和35年に福島県に移管され、県立養護学校（肢体不自由）が開校した。昭和37年に郡山市に本校、平に分校を設置した。その後昭和45年に平分校が県立平養護学校として独立した。

郡山市に位置する本校は、主に中通り、会津地方の児童生徒が学んでいる。肢体不自由特別支援学校は、郡山支援学校の他に、いわき市の平支援学校の2校のみであるため、通学範囲も広く、寄宿舎を設置している。

郡山市内を中心に通学バスを運行している。

児童生徒数は平成32年度以降若干減少していくと見られる。

【郡山支援学校データ】

○在籍児童生徒数推計

年 度	H25	H29	H32	H35	H38
人 数	177	180	195	190	177

○在籍児童生徒の市町村別人数（平成29年度）

市町村名	郡山市	須賀川市	福島市	二本松市	その他	計
人 数	89	12	11	9	59	180

○通学バスの運行状況

運行方面	学部別利用児童生徒数			
	小	中	高	計
郡山南部方面（約10km）	5	3	1	9

○寄宿舎の状況

学部別入所人数				主な入所者の地区別内訳
小	中	高	計	
0	3	19	22	県北10、県中7、会津5

（14）平支援学校（肢体不自由）

昭和28年に福島整肢療護園内に設置された肢体不自由の特殊学級が、昭和35年に福島県に移管され県立養護学校（肢体不自由）が開校した。昭和37年に分校となり、昭和45年に県立平養護学校として独立した。主にいわき市及び双葉地域の児童生徒が学んでいる。

児童生徒数は平成32年度をピークに若干減少して推移していくと見られる。

【平支援学校データ】

○在籍児童生徒数推計

年 度	H25	H29	H32	H35	H38
人 数	95	103	115	110	110

○在籍児童生徒の市町村別人数（平成29年度）

市町村名	いわき市	檜葉町	広野町	富岡町	その他	計
人 数	86	4	2	2	9	103

○通学バスの運行状況

運行方面	学部別利用児童生徒数			
	小	中	高	計
いわき駅、合庁（約8km）	16	3	9	28

○寄宿舎の状況

学部別入舎人数				主な入舎者の地区別内訳
小	中	高	計	
4	2	4	10	いわき 9、相双 1

(15) 須賀川支援学校（病弱）

病弱特別支援学校であり、昭和48年に開校した。

須賀川市に本校、福島市と郡山市に分校が設置されている。

児童生徒数は平成32年度以降若干減少していくとみられる。

【須賀川支援学校データ】

○在籍児童生徒数推計

年 度	H25	H29	H32	H35	H38
本校	65	64	79	68	62
医大	15	17	17	16	16
郡山	13	17	15	18	19

○在籍児童生徒の市町村別人数（平成29年度）

市町村名	須賀川	郡山	白河	鏡石	その他	計
本校	27	15	3	3	16	64
市町村名	福島	郡山	その他	—	—	計
分校（医大）	8	2	7	—	—	17
市町村名	郡山	—	—	—	—	計
分校（郡山）	17	—	—	—	—	17

○通学バスの運行状況

運行方面	学部別利用児童生徒数			
	小	中	高	計
須賀川市内、鏡石駅（約12km）	0	3	0	3

※本校のみ

(16) 会津支援学校竹田校（病弱）

病弱特別支援学校として、竹田総合病院（会津若松市）内に設置されている。

児童生徒数は今後横ばいで推移していくと見られる。

【会津支援学校竹田校データ】

○在籍児童生徒数推計

年 度	H25	H29	H32	H35	H38
人 数	12	8	16	10	13

○在籍児童生徒の市町村別人数（平成29年度）

市町村名	会津若松	喜多方	—	—	—	計
人数	7	1	—	—	—	8

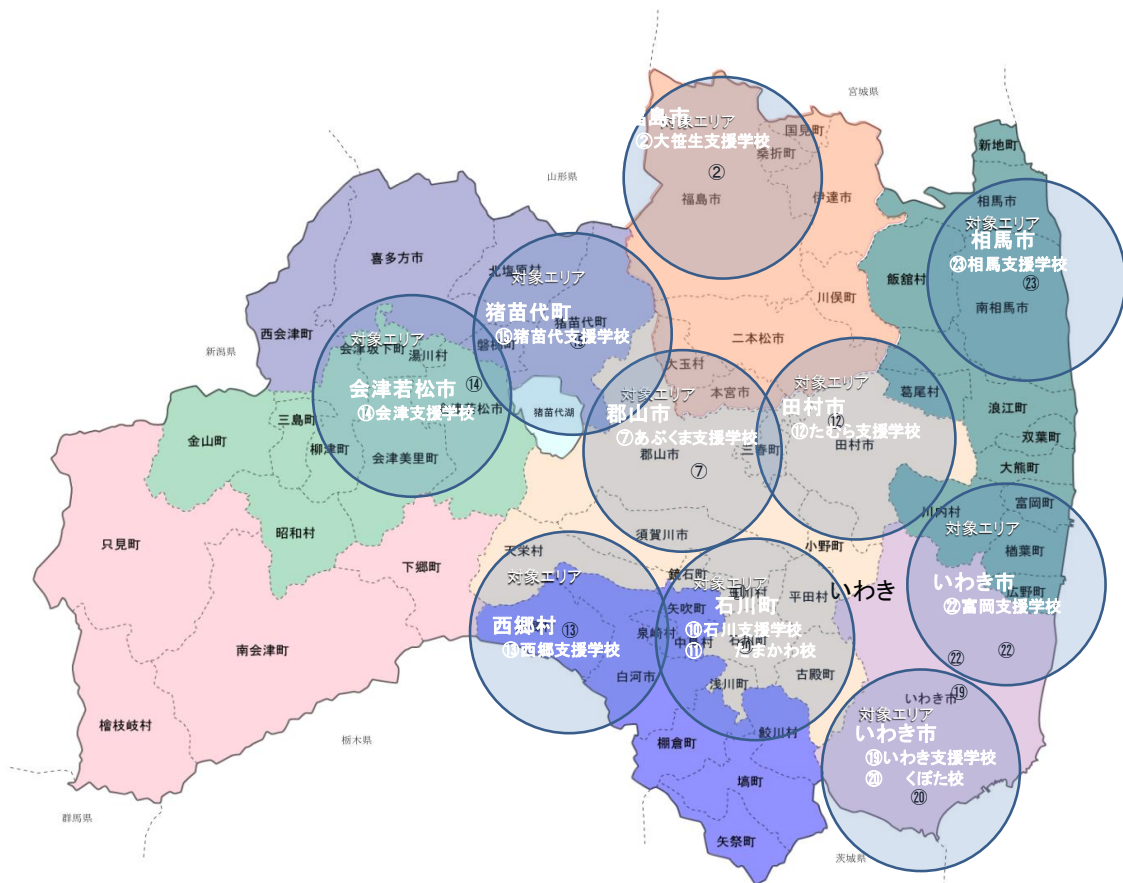


図15 知的障がい特別支援学校のセンター的機能（※）対象エリア

※学校教育法第74条に特別支援学校が地域の特別支援教育のセンター的機能を果たすことが位置づけられている。センター的機能の主な内容として①小・中学校等の教員への支援機能、②特別支援教育等に関する相談・情報提供機能、③障がいのある幼児児童生徒への指導・支援機能、④福祉、医療、労働などの関係機関等との連絡・調整機能、⑤小・中学校等の教員に対する研修協力機能、⑥障がいのある幼児児童生徒への施設設備等の提供機能がある。

7 県立特別支援学校の整備の方向性

(1) 知的障がい以外の特別支援学校の動向

視覚障がい、聴覚障がい、肢体不自由、病弱の特別支援学校の児童生徒数の推計は下記のとおりである。

ア 本校のみ (再掲)

学校名	H29	H38	差引	増加率	備考
視覚	28	32	4	114.3	
聴覚	79	67	△8	84.8	
郡山	180	177	△3	98.3	
須賀川	64	62	△2	96.9	
平	103	110	7	106.8	

各学校とも1けた以内の増減となっており、現状とほぼ同じ水準で推移していくものとみられる。そのため、新たな特別支援学校整備の必要性は低いと考えられる。

(2) 知的障がい特別支援学校の動向

① 在籍児童生徒数の推計からの検討

特別支援学校在籍児童生徒数の平成38年度の地区別内訳は下記のとおりである。このうち、50人以上の増加が見込まれるのは、県北地区と県中地区となっている。会津地区も県北、県中地区までではないものの増加する見込みである。南会津地区では増加率が高くなっている。

ア 各地区の在籍児童生徒数の推計 (再掲)

地区名	H29	H38	差引	増加率	備考
県北	408	481	73	117.9	
県中	668	727	59	108.8	
県南	178	188	10	105.6	
会津	283	314	31	111.0	
南会津	23	31	8	134.8	
相双	145	160	15	110.3	
いわき	379	391	12	103.2	
計	2,084	2,292	208	110.0	

イ うち県北地区の状況 (再掲)

地区名	H29	H38	差引	増加率	備考
福島市	229	257	28	112.2	
伊達市・伊達郡	88	114	26	129.5	
二本松市・本宮市・安達郡	91	110	19	120.9	
計	408	481	73	117.9	

県北地区をみると、福島市だけではなく、伊達市を含む伊達地区、二本松市、本宮市を含む安達地区も増加率が高くなっている。

ウ うち県中地区の状況 (再掲)

地区名	H29	H38	差引	増加率	備考
郡山市	430	459	29	106.7	
須賀川市・岩瀬郡	146	157	11	107.5	
田村市・田村郡	46	57	11	123.9	
石川郡	46	54	8	117.4	
計	668	727	59	108.8	

たむら支援学校、石川支援学校たまかわ校の開校により田村市・田村郡、石川郡の増加率は高くなる。増加人数は郡山市が最も多く、郡山市以外の増加人数は10人程度である。

エ うち会津・南会津地区の状況 (再掲)

地区名	H29	H38	差引	増加率	備考
会津若松市	141	148	7	105.0	
喜多方市・耶麻郡	83	94	11	113.3	
両沼郡	59	72	13	122.0	
計	283	314	31	111.0	

地区名	H29	H38	差引	増加率	備考
下郷町	10	16	6	160.0	
南会津町	12	14	2	116.7	
只見町	1	1	0	100.0	
計	23	31	8	134.8	

一部増加率が高い地区があるが、増加人数はいずれの地区も10人程度である。

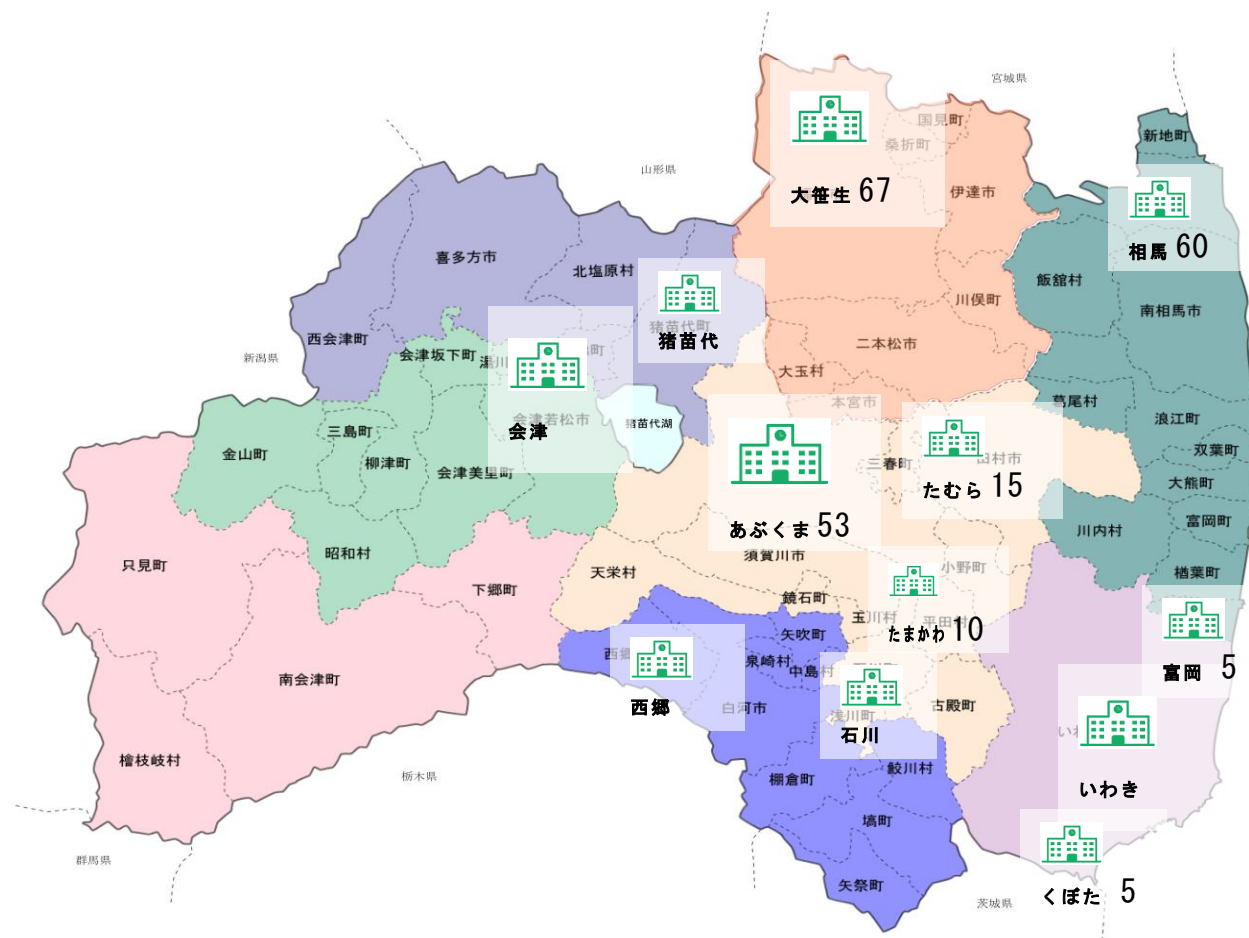
② 特別支援学校在籍児童生徒数と想定定員数からの検討

平成38年度の各学校の推計人数と想定定員数を比較すると、大幅に上回っているのは、大笹生支援学校、あぶくま支援学校、相馬支援学校となっている。相馬支援学校は130人規模の学校を想定した南相馬市への移転計画が進められている。それ以外の学校は概ね想定定員数の範囲になる見込みである。

ア 各特別支援学校の児童生徒数の推計 (再掲)

学校名	想定定員数 A	H29 人数 B	H38 人数 C	過不足数 A-C
大笹生	215	257	282	△67
あぶくま	300	348	353	△53
石川	110	121	105	5
たまかわ校	40	37	50	△10
たむら	75	38	90	△15
西郷	120	129	107	13
会津	190	218	180	10
猪苗代	65	43	45	20
相馬	75	94	135	△60
富岡	80	52	85	△5
いわき	215	211	180	35
くぼた校	40	28	45	△5

○知的障がい特別支援学校の想定定員数を超える人数予測（平成38年度）



※ 学校名横の数字は、想定定員を超えた人数を表示

① の特別支援学校在籍児童生徒数の地区別推計で一定の人数が見られた会津・南会津地区については、②の特別支援学校別児童生徒数の推計で分析した結果、必ずしも高い数値とはなっていない。

南会津地区の児童生徒については、地区内に特別支援学校の設置がないため、入所施設等を利用して併設された特別支援学校に通学するなど、他地区で学ぶ選択をしていると見られる。会津地区については、平成38年度の人数見込みで会津支援学校は平成29年度よりやや下回り、猪苗代支援学校は横ばいで推移すると見られる。これらを考慮すると、会津地区での学校整備の必要性は、県北地区や県中地区、南会津地区よりも低いと想定される。

③ 県北・県中地区の状況

県北、県中地区のうち、平成38年度も現在より人数が大幅に増加することが予測されるのは、大笹生支援学校とあぶくま支援学校である。

【大笹生支援学校の状況】

○在籍児童生徒の市町村別人数（推計）

市町村名	福島市	伊達市	桑折町	川俣町	国見町	その他	計
平成29年度	171	56	8	8	4	12	257
平成38年度	182	69	10	10	5	6	282

【あぶくま支援学校の状況】

○在籍児童生徒の市町村別人数（推計）

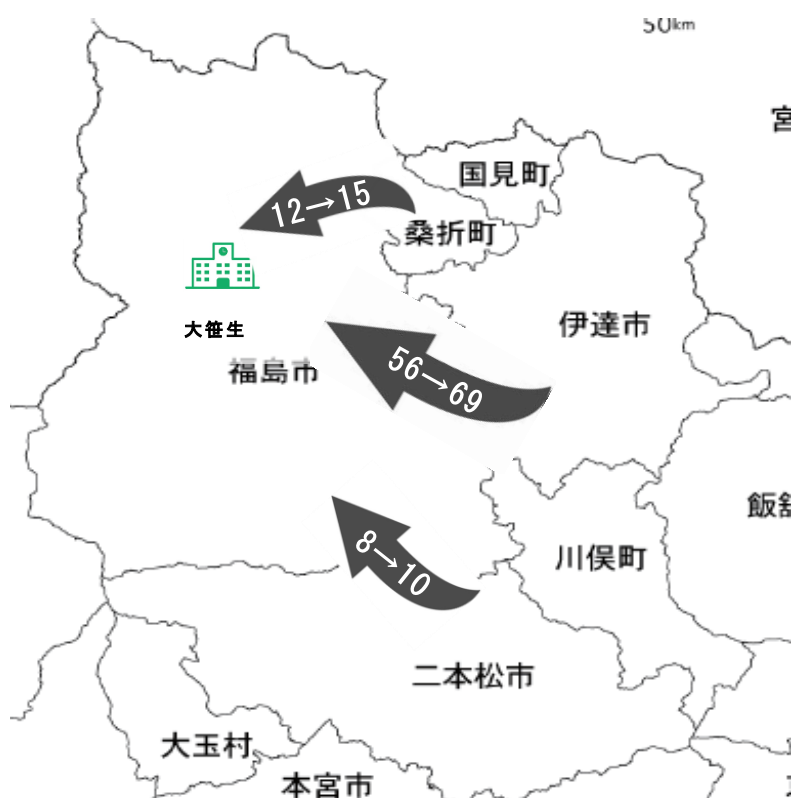
市町村名	郡山市	須賀川市	本宮市	二本松市	その他	計
平成29年度	257	28	20	12	31	348
平成38年度	274	30	22	15	12	353

ア 伊達地区の状況

伊達市、伊達郡から大笹生支援学校へ通学する児童生徒数は、平成29年度の76人から平成38年度には94人に増加する見込みである。

また、伊達市には、学校教育法施行令第22条の3に該当する特別支援教育のニーズがあるものの、通学の負担等から居住地の小学校や中学校の特別支援学級等で学んでいる児童生徒数が10数人ほどいる。これらの人数を考慮すると100人を超えることが想定される。

- 伊達地区から大笹生支援学校へ通学する人数の推移
(平成29年度から平成38年度の推移)



イ 安達地区の状況

安達地区には特別支援学校がなく、大笹生支援学校、あぶくま支援学校、たむら支援学校の3校に分かれて通学しており、安達地区からの児童生徒数は平成29年度で59人となっている。平成38年には、65人程度になる見込みである。

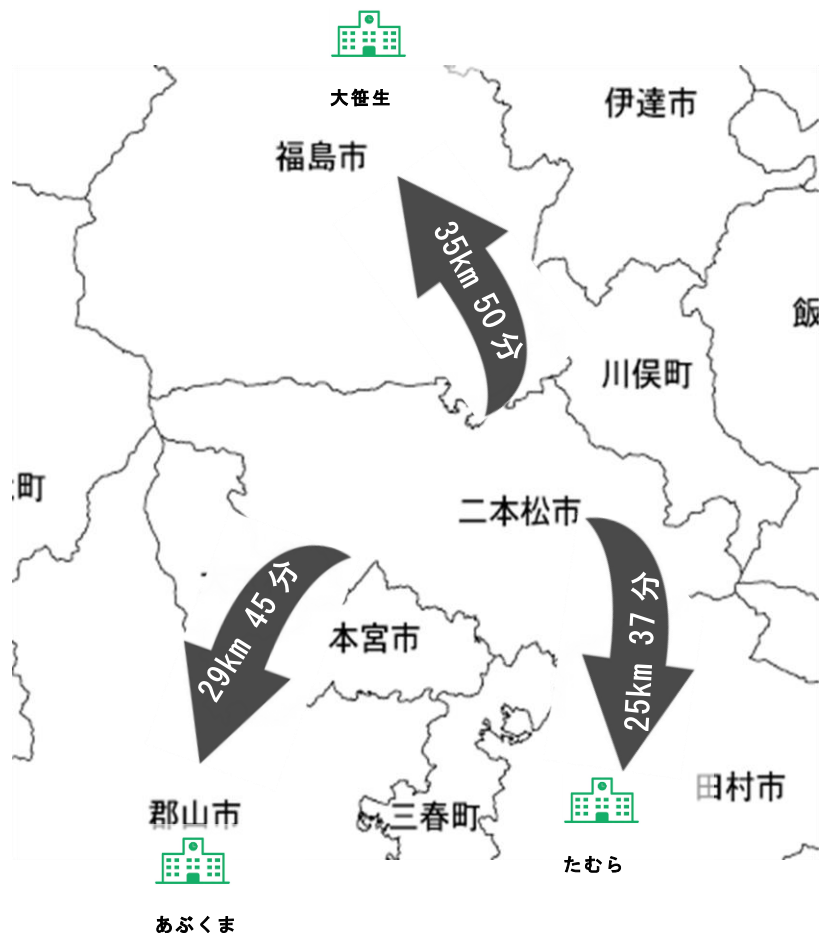
○ 安達地区から特別支援学校への通学人数（平成29年度）

市町村名	大笹生	あぶくま	たむら	計
二本松市	4	12	14	30
本宮市	0	20	3	23
大玉村	0	5	1	6
計	4	37	18	59

○ 二本松市から近隣の特別支援学校までの通学時間と距離（再掲）

地域	学校名	公共交通機関と時間	車利用の距離と時間
二本松	大笹生支援	J R 23分 福島交通バス 22分	35km 50分
二本松	あぶくま支援	J R 24分 福島交通バス 11分	29km 45分
二本松	たむら支援	J R 51分 福島交通バス 3分	25km 37分

○ 二本松市中心部からの近隣の特別支援学校までの距離と所要時間



郡山市北西部（日和田、磐梯熱海等）に居住し、特別支援学校に在籍する児童生徒数は、平成29年度では27人となっており、郡山市内の交通事情等から通学時間が長くなっている。通学時間と距離を比較すると、安達地区に学校が整備されることで通学時間、距離ともに短縮が図られることから、安達地区の特別支援学校に通学する場合がある。

○ 郡山北西部地区からあぶくま支援学校への通学人数（平成29年度）

日和田地区	磐梯熱海地区	西田地区	喜久田地区	計
14	6	4	3	27

○ 郡山市北西部から本宮市中心部までとあぶくま支援学校までの通学時間と距離

地域	車利用の場合の距離と時間	
	あぶくま支援学校	本宮市中心部
日和田	11.0km 23分	8.8km 17分
磐梯熱海	22.0km 40分	13.8km 22分
西田	13.4km 20分	11.2km 18分
喜久田	14.0km 27分	9.6km 16分

平成29年度の安達地区に居住する児童生徒数と郡山北西部に居住する児童生徒数を加えると、86人程度となる。

④ 南会津地区の状況

南会津地区の特別支援学校在籍児童生徒は、主に会津支援学校、猪苗代支援学校への通学や他地区の寄宿舎・施設を利用して通学している。

○ 南会津地区から会津支援学校まで通学した場合の距離等と時間

地域	公共交通機関と時間	車利用の距離と時間
下郷町	会津鉄道 60分	35km 50分
南会津町	会津鉄道 70分	50km 70分

※ 会津若松駅までの所要時間 徒歩時間は除く

南会津地区は面積が広大で、冬期間は積雪が多いという地理的環境となっている。この地区で特別支援学校での学びが必要な児童生徒は20人ほどいるものの、地区内に特別支援学校がないため、他地区の施設や寄宿舎の利用か、遠距離通学を余儀なくされ、児童生徒や保護者の負担が大きくなっている。このほか、同地区の小・中学校では特別支援学級在籍児童生徒数が増加していることや、学校教育法施行令第22条の3に該当する児童生徒数が10人ほどいること、さらには特別支援学校高等部への進学を希望する生徒数等を加えると、特別支援学校への潜在的人数は

10年後においても30人程度見込まれる。この地区に特別支援学校を設置することで「地域で共に学び、共に生きる教育」という理念の実現につながるほか、センター的機能の発揮により、地域の特別支援教育の充実が図られる。さらに会津支援学校を始めとする通学先の特別支援学校の児童生徒数が減少することにより、他地区の教育環境も改善される。

⑤ 特別支援学級の在籍児童生徒数の状況を踏まえた検討

近年、特別支援学級の児童生徒数が増加してきている。特別支援学級で学ぶ児童生徒は、特別支援学校での専門的な指導と支援を求め、特別支援学校に進学するケースが増加している。そのため、特別支援学級で学ぶ児童生徒数の増加は、特別支援学校に在籍する児童生徒数の増加につながっている。特に中学校卒業後の進路を選択する上で顕著であり、特別支援学校高等部の生徒数の増加につながっている。

ア 各生活圏域における特別支援学級在籍状況

地区名	H29	H38	差引
県北	882	1,009	127
県中	1,018	1,235	217
県南	238	286	48
会津	314	356	42
南会津	41	46	5
相双	218	241	23
いわき	480	535	55
計	3,191	3,708	517

特別支援学級在籍児童生徒数は年々増加しており、こうした傾向は今後も続く想定されている。特に児童生徒数が多い地区は、県北、県中地区となっており、多くの児童生徒が特別支援学校に転進学すると見られる。

イ うち県北地区の状況

地区名	H29	H38	差引
福島市	454	519	65
伊達市・伊達郡	206	236	30
二本松市・本宮市・安達郡	222	254	32
計	882	1,009	127

伊達地区、安達地区とも特別支援学級の増加傾向にあり、特別支援学校で学ぶ児童生徒数が増加する可能性が高く、前述した特別支援学校児童生徒数の推移と合わせると伊達、安達両地区は、特別支援学校児童生徒の一定の人数が見込まれる。

ウ うち県中地区の状況

地区名	H29	H38	差引
郡山市	619	751	132
須賀川市・岩瀬郡	136	165	29
石川郡	85	103	18
田村市・田村郡	178	216	38
計	1,018	1,235	217

郡山市以外は田村市・田村郡で増加している。郡山市の特別支援学級在籍児童生徒数の増加により、特別支援学校への児童生徒数の増加が見込まれるが、市内北西部を中心とする地区においては、安達地区の設置場所を検討することで対応が可能である。

エ うち南会津地区の状況

地区名	H29	H38	差引
下郷町	10	11	1
只見町	7	8	1
南会津町	24	27	3
計	41	46	5

南会津地区の特別支援学級在籍児童生徒数は増加しており、40人を超える状況で推移することが見込まれる。

前述したように特別支援学校がないため、特別支援学校整備の必要性は高いと考えられる。